

授業科目名 科目コード	ゼミナール I 前 (Seminar 1) 2425-0-11-001					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	1	配当年次	1 年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

ホームルーム的役割を持ちつつ、(1)大学のスタディスキル基礎の習得、(2)数学的能力の向上、(3)「社会人基礎力」の向上、を目標とする授業である。

(1)については、(A)大学の授業の受け方の理解、(B)大学の各種学習支援施設・サポートなどの活用法の理解など、(C)レポート・レジュメ作成法習得、を目指す。

(2)については、米百俵ドリルの数学を活用することなどにより基礎計算の振り返りと定着を図る。

(3)については、ディスカッションやグループワーク等に取り組み「チームで働く力」などの醸成を目指す。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。

③ 授業の進め方・指示事項

毎回、教科書、配布資料等により解説を行い、演習・グループワーク等にも取り組む。数学的能力の向上については、演習問題による理解の確認と知識定着を進める。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「ゼミナール I 後」「キャンパスライフ入門」

⑤ テキスト (教科書)

山田剛史・林創 (2011)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房

⑥ 参考図書・指定図書

佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編 (2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3 訂』ナカニシヤ。その他、新書リストの図書。

⑦ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安

(i) 大学での学習法を説明できる。

(ii) 与えられた課題に対してレジュメないしレポートを作成できる

(iii) スピーチ、グループワーク等を十分こなせる

(iv) 基礎的な数学の課題を解ける

(v) 社会人基礎力 (「チームで働く力」(規律性等)) を培い、授業ルールを守る

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 大学での学習法	資料等に頼らずに、大学での学習法を説明できる	資料等に頼らずに、大学での学習法を説明できる	資料等を参照しながら、大学での学習法を説明できる	資料等を参照し、さらに教員の助言も受けることで、大学での学習法を説明できる	資料等を参照し、さらに教員の助言を受けても、大学での学習法を説明できない
(ii) レジюме／レポートの作成	課題に対して自身の力で期待以上の内容のレジюме／レポートを作成できる	課題に対して自身の力で十分なレジюме／レポートを作成できる	訂正・書き換えの指示を受けた書き換え等により、十分なレジюме／レポートを作成できる	訂正・書き換えの指示を受け、さらに教員の直接の助言を受けることで、課題に対して十分なレジюме／レポートを作成できる	訂正・書き換えの指示を受け、さらに教員の直接の助言を受けても、課題に対して十分なレジюме／レポートを作成できない
(iii) スピーチ、グループワーク等	与えられたテーマについて途中で資料等に頼ることなく、質疑応答にも臨機応変に対応できるなど、授業で解説した水準を超えスピーチ、グループワーク等をこなせる	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼ることなく、スピーチ、グループワーク等を十分こなせる	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼ることで、スピーチ、グループワーク等をこなせる	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼り、さらに教員の助言も受けることで、スピーチ、グループワーク等をこなせる	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼り、さらに教員の助言を受けても、スピーチ、グループワーク等をこなせない
(iv) 数学的能力	資料の参照なしに、与えられた課題だけではなく授業で解説していない応用問題も解ける	資料の参照なしに、与えられた課題を解ける	資料等を参照しながら、与えられた課題を解ける	資料等を参照しながら、かつ教員の助言も受けることで、与えられた課題を解ける	資料等を参照し、かつ教員の助言を受けても、与えられた課題を解けない
(v) 社会人基礎力	授業ルールを遵守をゼミ内で率先できる	授業ルールを遵守できる			授業ルールを遵守できない

⑨ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 （レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合		8%	40%	20%	20%	12%	100%
（i）大学での学習法			20%				20%
（ii）レジュメ／レポートの作成			20%				20%
（iii）スピーチ、グループワーク等				20%			20%
（iv）数学的能力		8%				12%	20%
（v）社会人基礎力					20%		20%
フィードバックの方法	小テストの採点結果、課題・発表等に対する評価は、その都度個別にフィードバックする。						

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
授業で取り組んだ各項目について、レポートやその他の課題等により随時習得度を確認しながら授業を進める。数学的能力の向上、スタディスキル基礎の習得、社会人基礎力の向上について、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	アイスブレイク、オリエンテーション、自己紹介	次回授業内容の予習課題への取り組み	120 分
2	大学での学びの基本①（概要、施設等活用法）	予習課題への取り組み	120 分
3	大学での学びの基本②（ノートのとり方）、スピーチの解説	ノート作成・スピーチ等の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	120 分
4	～全ゼミ共同の特別授業～ PROGの活用法解説（講師：リアセック社谷川様）	配付資料による授業内容の復習、自身の PROG データに関するワーク	120 分
5	リーディングスキルテストの実施、 大学での学びの基本③：レポート作成法	リーディングスキルテスト結果の振り替えり、レポート作成の課題への取り組み、米百俵ドリル	120 分
6	大学での学びの基本④：レポート作成法、レジュメ作成法	レジュメ作成の課題への取り組み、スピーチ関連の課題への取り組み	120 分
7	大学での学びの基本⑤：レジュメ作成法、レジュメ使ったスピーチについて	レジュメを使ったスピーチ準備の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	120 分

8	基礎計算①、グループワーク、レジュメ・レポート演習、スピーチ演習等	基礎計算の予習課題への取り組み、スピーチ準備	120 分
9	基礎計算②、グループワーク、レジュメ・レポート演習、スピーチ演習等	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、レジュメ・レポート課題、スピーチ準備	120 分
10	基礎計算③、グループワーク、レジュメ・レポート演習、スピーチ演習等	基礎計算テストへの準備、レジュメ・レポート課題、スピーチ準備	120 分
11	基礎計算④、グループワーク・スピーチ実習等	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	120 分
12	基礎計算⑤、グループディスカッション①（解説・テーマ設定等）	基礎計算テストへの準備、グループディスカッション準備	120 分
13	グループディスカッション②（準備、試行）	米百俵ドリル、グループディスカッション準備	120 分
14	グループディスカッション③（実施、発表）	グループディスカッション準備	120 分
15	全体の振り返り	各回授業のポイントの振り返り	120 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL を採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性